

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成 24 年 2 月 21 日現在

今月の重点活動

(アスパラガス春芽収穫に向けて保温開始：羽島市)

春出荷に向けハウスの保温時期を迎えて、作業がスタートした。農業普及課では適切な管理指導を行っている。今年は寒い日が多く休眠が深いのか、萌芽はまだまだであるが、走りの芽を確認した。県産アスパラガスの春出荷はまだ珍しく、3月中旬から岐阜市場を通して、地元量販店で販売される。



【ハウス保温の様子】



【走り芽】

主要農作物の生産振興

■えだまめ

24年産の作付け開始！

ハウス栽培の播種が2月1日（トンネル栽培の播種は2月25日）から始まり、今後、5～7日間隔で播種が行われる。農業普及課では管理指導を実施している。24年産は出荷量1,100tを目標に高品質なえだまめ生産を目指す。

【播種の様子】



■いちご

「ぎふいちご」海外、全国への販売戦略

「ぎふいちご」を輸出するため、1月末から2月中旬にかけて試験的にタイへ送った。また、全国から「ぎふいちご」がほしいという要望があっても購入出来なかったため、全農のネット販売システムのJAタウンを使いネット販売を始めた。JAぎふでは、これで首都圏にもPR活動が出来るようになったため、2月18日に東京銀座三越でPRを行った。

【海外・ネット販売するいちご】



岐阜市のいちご青年部が他業種とコラボして新商品の開発

岐阜市園芸特産振興会いちご部会では、青年部を中心に、いちごの商品開発及び他業種との交流を深めている。農業普及課もマッチングの支援を行っており、第1段として、2月4日・5日にマーサ21でのイベント「岐阜の美味しいものが食べたい！」（岐阜商工会と岐阜信用金庫主催）で、コラボした業者と一緒に出店しPRを行った。

【マーサ21でいちごPR販売】



■かき

剪定、間伐推進指導！

管内の柿産地では、降雪や天候不順のため遅れていた剪定作業が急ピッチで進められている。また、粗皮削りも始まり、次年度産の高品質果生産にむけて作業が進められて

おり各振興会に対して現地指導を実施している。1月末から3月中旬にかけ振興会に間伐の実施状況のための検査を実施する。

新品種「早秋」「太秋」の生産拡大へ！

管内で導入が進められている新品種「早秋」、「太秋」の栽培・剪定講習会を1月21日に開催した。④柿振興会の糸貫地区では「早秋」を推進していたが、真正地区の「太秋」の販売実績が好結果であったことから「太秋」の導入も検討している生産者が増え始めている。

担い手の育成・確保

■若手女性農業者の育成

（若手女性農業者研修会の開催）

管内の子育て期間中の女性農業者12名に対し、農業経営を支えるパートナーとしての活動や仲間作りを目的とした研修会を開催した。（2月7日）。当日は経営主として柿栽培と加工に取り組んでいる高田里美さんと、よりよい花卉経営を目指して夫婦で取り組んでいる浅野きよ美さんの事例を聞き、熱心に意見交換が行われた。



【意見交換会の様子】

■認定就農者支援

①瑞穂市で苗（野菜等）生産を行う就農希望者に対して、7月の栽培開始にむけて、認定就農者申請を行うにあたり手続き、書類作成について支援を行っている。

②瑞穂市でかき生産を行う就農希望者について、関係機関と打ち合せ、申請書類作成等の支援を行った。すでに就農予定地で剪定作業に入っているが、地域の担い手としても期待されている。

■集落営農組織・営農組合

（岐阜市水田農業担い手を対象に水稻・野菜栽培指導）

岐阜市水田農業担い手協議会では1月27日に、新しい補助事業支援制度や栽培技術についての研修会を開催した。

農業普及課からは岐阜地域の水稲の課題と対策及びブロッコリー導入についてのポイントを指導した。研修会では枝豆を経営に導入した営農組織の事例報告もあり、今後、野菜を取り組む場合の参考になったと思われる。

（法人経営研修会を開催）

2月6日に新たに法人となった農事組合法人アグリかかみが、法人税制度・給与支払等の会計管理・労働管理等を学ぶため、税理士法人成和の渡辺税理士を講師として法人経営研修会を開催し、運営支援を行った。アグリかかみは平成24年度から農地集積を行い、水田11haを利用権設定して水稻・飼料用米・露地野菜を栽培する。農業普及課からはそれぞれの品目についての経営試算、労働時間について情報を提供した。

（能郷白山の郷営農システム研究委員会）

委員会では、会合を重ねて組織化へ向けて検討が進んでおり、農業普及課も検討会に参加し支援を行っている。

今後は個人所有の機械と、組織の機械装備について協議し、来年度に組織を設立する方向で検討を進めている。